

実施報告書

一般財団法人くまもと未来創造基金

事業名	オルビスくまもと未来基金団体基盤強化セミナー④ 報告会・交流会		
開催日時	平成30年11月4日(日)13:30～17:00		
会場	熊本市シアーズホーム夢ホール(熊本市市民会館)第7会議室		
目的	1. オルビスくまもと未来基金採択団体の基盤強化セミナー オルビスくまもと未来基金採択団体の運営基盤を強化する研修会・個別相談会・交流会や報告会の開催により、活動の計画性や持続性、資金調達力を高めることで、持続的被災者支援活動が行われることを目的とする。		
内容	<p>【第4回セミナー】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 団体活動報告 2. 各団体次年度以降の組織運営について 3. 12月16日「財団アワード」最終報告発表について 4. 2019年オルビスくまもと未来基金募集について 5. 交流会 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・団体の活動のまとめ・成果・課題をする。次年度以降の計画を立てる。 		
対象	オルビスくまもと未来基金採択団体6団体・一般参加者		
参加費	無料		
参加者実数	11名	予定人数	11名
スタッフ	一般財団法人くまもと未来創造基金 宮原(司会進行)・本多(受付・記録)		
内容(流れ)	1 開会挨拶 2 セミナー	<p>宮原</p> <p>内容)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中間報告以後の活動について(各団体5分) <ol style="list-style-type: none"> ①活動報告 ②成果 (特に力を入れたこと、セミナーでの学びを活かしたこと) ③各団体への質問タイム 2. 今後の活動について <ol style="list-style-type: none"> ①来年度以降の活動について ②団体の運営について課題にどう取り組むか? 3. 最終報告会・報告書のまとめ方 オルビスくまもと未来基金2019年募集について 	
	3.閉会 4. 相談会	<p>事務連絡 他</p> <p>各団体ごとの相談・活動の進捗状況・相談を行う</p>	
託児	参加団体の希望により、1名のお子さんにおもちゃを準備		



●参加者名簿(11名 全団体出席)

	お名前	活動団体名
1	渡邊 みか	ハンズハンズ「だんだん食堂」新規メンバー
2	穴井 智子	ハンズハンズ「だんだん食堂」
3	松野 愛	熊本転入ママの会
4	東山 恵子	熊本転入ママの会
5	塚本 薫	ママハタラクプロジェクト
6	中村 絵里加	ハロウィンマルシェ実行委員会
7	濱本 唯	ハロウィンマルシェ実行委員会
8	香山 佳奈	ハロウィンマルシェ実行委員会
9	中村 あゆみ	よかあんばいJAPAN
10	園木 ひとみ	よかあんばいJAPAN
11	藤村 藍香	熊本大学災害ボランティアサンフラワー

●団体の3年後の姿・抱える課題・優先すべき課題

団体名	3年後の姿	団体の課題
ママハタラクプロジェクト	活動の中からダイバーシティの実践を行い、課題を解決するプロジェクトとしての認知団体になる。	団体内のビジョンの共有 計画スケジュールリング
ハロウィンマルシェ実行委員会	実行委員会のレベルアップ(10人体制くらい)他とのコラボができ、自己資金で運営できる体制になっている	安定した資金確保 実行委員・ボランティアの増員
よかあんばいJAPAN	長期休みの子どもたち預かり、生活体験・学習体験の場提供 地域と連携し、親子味噌づくり体験が恒例となり、手作り味噌を家庭でも作る人たちが増える。	安定した財源 人材補充 連携 事業の整理・システム化・広報強化
熊本転入ママの会	活動の安定化(寄付などの収入源)ネット上の情報発信充実。熊本の良さを全国に発信、転入したい町・永住したい町NO1にする。	自主財源の確保 会員増 システム化 広報ツール充実
ハンズハンズ	継続的活動ができるようにする。子どもやお年寄りが毎日利用できる場所作り 自主財源・お年寄りの収入を実現	組織体制の強化 人材確保 収入源の多様化 広報充実
熊本大学災害ボランティアサンフラワー	ビジョンの明確化や役割分担など組織体制が整い、他の学生団体等と連携し、継続した活動ができている。	新入部員の確保 組織基盤 計画-実行性 学生活動報告会

各団体の報告と課題一覧

団体名	中間報告以降の活動	今後の課題
ママハタ クラブ プロジェクト	<p>・インターンシップマッチング会を11/27開催予定。 (託児付き、報酬付き←助成金を活用)</p> <p>・企業の勉強会を11/29に開催予定。 美容・福祉・通信分野など(中小企業同友会と連携)</p> <p>★来年は<u>熊本県のよかボス事業(子ども未来課)</u> <u>との連携を考えている。</u></p> <p>スキルアップ+事業 行政とのつながり → 情報をまとめる。 協力・連携する 担当課との信頼関係</p>	<p>・他団体の活動の事業化を支援</p> <p>・学童の事業化 (企業から資金を調達し、 民間による学童の運営)</p> <p>・よかボス事業との連携</p>
よかあ んばい JAPAN	<p>『ゆるっとまるっと夏休み』全8回開催</p> <p>・のべ134人の参加があった。</p> <p>・大人34人、スタッフ24人、 学生ボランティア20人</p> <p>・今回初めての試みとして、保護者の育児などの悩み や相談を受けた。(子どもの発達に関する悩みや 学校との関わり方など)</p> <p>★保護者からの要望が多かった。</p> <p>・スタッフ間で、方向性などを話し合いながら開催 できたので良かった。</p> <p>課題</p> <p>・実施時間や開催日が、会場の都合に合わせなければ ならず、予約が取れない日などもあった。</p> <p>・開催時間(子どもの受け入れ時間)が9~15時 保護者の仕事などで、時間外の受け入れの 問い合わせがあった。 今回は対応できなかったため、次回以降の 対応を検討したい。</p> <p>・参加者を増やしたい。</p> <p>・行政とのやり取り(関係性)を工夫したい。</p>	<p>・財源について、菊陽町の企業 などへの働きかけ。</p> <p>・人材については、養成講座など を開催して、味噌づくりなど の人材を育成したい。</p> <p>・「ゆるっとまるっと〇休み」の事 業化への展開も考えたい。 ⇒まずは情報収集から</p>
くまてん	<p>『くまてんタウン』10/13開催</p> <p>・当初参加者を300人で予定していたが、650人を 超える申し込みがあったので、400人に増やした。</p> <p>・子どもの安全対策を重視し、内容や配置に気を配っ た。</p> <p>・協賛を20団体(キリンなどの企業など)にお願 いできたので、次回の開催につなげられる関係性を 意識した。</p> <p>・メディア(熊日など)に取り上げてもらうことが でき、子どもが主体的に街を作っていくという方向 性に大きく賛同してもらえたため、次回以降の開催 も取材させてほしいと言ってもらえた。</p> <p>課題</p> <p>・現在のようにママたちだけの開催だと、出産や 転勤などもあり、長期的には難しいので、組織とし てのガバナンスを強化したい。</p>	<p>・今年度は「くまてん」の開催 事業のうちのひとつとしての 位置づけだったが、規模の 大きさなども考慮し、次年度以 降は『くまてんタウン実行委 員会』としてくまてんとは 独立して活動していきたい。</p> <p>⇒組織の強化 予算の確保 協賛企業との連携</p>

<p>ハンズハンズ (だんだん食堂)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・朝ご飯の開催日について、夕ご飯の利用者の保護者に意見を聞き、平日の開催から土曜日の開催に変更したところ、30名くらいの参加に増えた。 ・夕ご飯の参加者は毎回100~150人 (遅い時間に訪れる家族もなるべく受け入れたい) ・ボランティアも10~15名くらい毎回来てもらえる。 ・協力団体も増えてきた。 (マルキン、JA、印刷会社など) ・社協でも、はじめはあまり対応してもらえなかったが、何度も足を運び、理解してもらえるようになってきた。(紙面で取り上げてもらうなど) ・体験活動も数回実施 梅干しづくりなど(仮設のお年寄りを講師に招いた) ・子ども食堂ネットワークに参加・情報収集 ・食堂利用者にアンケートを実施 (悩み相談なども受け入れ) ・情報発信について、SNSだけではお年寄りに届きにくいので、手作りの新聞を発行し、支援者やお年寄り向けに情報を発信している。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催場所が飲食店なので、お店の休みに合わせて開催しているが、自由に開催できる場所を探したい。 ・町民課など行政や、関係機関との連携 ・地域とのつながりを深めたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・組織としての強化 ボランティアスタッフの確保 ・広報活動(新聞などの継続) ・NPO法人化を視野に入れた
<p>熊本大学 サンフラワー</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学生団体の連携を目的とした勉強会を3回実施。団体の運営や広報について学んだ。 ①7月「団体運営マネジメント」 ②8月「広報:団体のキャッチフレーズづくり」 ⇒SNSなどでの情報発信をこまめに行う ③10月「ファシリテーション(グラフィックを含めて)」 ⇒会議内容の充実につながる学び ・年度の最後に学生団体の報告会を開催したい。 ・「まなびば」の活動に参加した。 ・木山仮設のお祭りのお手伝いに行った。 ・通常の活動の子ども遊び支援を行った。 仮設間の子ども交流も企画したが、実際は1か所の子どもの来なかったのが残念だった。 ・学習支援について、他団体との連携なども今後は考えたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年できた他団体とのネットワークを継続し、連携していきたい。 ・活動内容がわかりやすいパンフレットの作成。 ・新入部員の確保 <p>★12月9日学生団体・一般活動報告会&交流会開催予定(未来会議室)</p>
<p>子どもが主役のハロウィンマルシェ実行委員会</p>	<p>10/28にイベント開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1万人弱の来場者(過去最高) ・130軒の出店(物販・飲食・ワークショップ・フォトブース・子ども店長) ・ステージイベントとして、仮装コンテストなど ・学生ボランティア24名を集めた。 グループリーダーとして10~15名のスタッフにボランティアをまとめてもらったので、スムーズに実施できたのが良かった。 ・搬入車両の動きをスムーズに誘導できた。 ・看板なども手作りで事前にたくさん準備できた。 ・スタッフTシャツや腕章、子ども店長ブースのおそろいのエプロンなどで、来場者にわかりやすくアピールできた。 ・県内各地で多く開催されている、他のマルシェとの差別化を意識し、「子どもの笑顔を引き出す、子どもが主役」のイベントとして、企画や広報に明確な方向性を持たせたことが成功につながったのではないかと。 ・広報・告知活動として、フライヤー27000部を近隣市町村(県北中心)の幼稚園保育園などに配布をお願いした。ポスターも300枚掲示。 ・今回の開催で、セミナー屋相談を通して、行政との連携や、財源の確保について学んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安定した資金の確保 (現在は助成金にたよっているため、助成金以外で) ・大人の入場料の金額をあげるか検討(くじなども) ⇒「応援チケット」など名称を変更してはどうか? ・開催地との連携 ⇒今後も長洲町で開催を続けたい。 「長洲町をハロウィンのメッカに!」 (長洲町担当者)

団体名	サポート側から見る成果・課題 ①	
	助成事業	組織運営
ママハタラク プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・自主事業・助成金事業をうまく活用して ①セミナー ②中小企業同友会勉強会 ③マッチングイベント <p>を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中小企業同友会との連携により勉強会を実施したが企業の理解はこれから ・時代の要請を受けて、多方面でも活躍・注目され、来年度は、熊本県こどもみらい課との連携依頼があった。 ・行政・企業連携について他団体へ事例を紹介！ 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業実施により、セミナー受講者の中から新規雇用。事業推進メンバーが新たに加わった。 ・新規事務所への移転。自団体による託児サービスの充実が図れた。 ・行政機関・理解ある企業との連携へと発展している <ul style="list-style-type: none"> ・採択団体との連携による新規事業(放課後の学習支援)展開に進みつつある(よかあんばいJAPAN・ハンズハンズ)
熊本転入ママの会	<ul style="list-style-type: none"> ・熊本初開催「職業体験イベント」は大盛況で、社会的反響も大きかった。 ・財団で勉強会を実施し、団体を紹介。団体と連携した準備開催ができた。 ・講師団体へ研修に行き、勉強会・準備を重ねて、手作り感あふれる素晴らしい内容のイベントであった。 ・今後の実施体制が課題。 ・企業やメディア連携来年度はさらに進めていく予定 	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント実施による団体内の結束・新規メンバー加入があった。 ・職業体験事業と他の事業との体制や役割分担が課題 ・メンバーの移動に左右されない組織体制づくり・資金計画については、個別相談予定。
よかあんばいJAPAN	<ul style="list-style-type: none"> ・長期休暇のこども体験教室のニーズは高いが、実施体制(開催場所・回数・参加者増)は今後の課題 ・地域の行政の広報協力は得られたが、実施体制の協力が今後の課題 ・保護者からのニーズに対応できる体制については検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・味噌づくり体験普及・子ども教室との位置づけ―事業展開の方向性が課題である。 ・「味噌づくり」資格制度を作り、普及メンバーを増やして予定。これにより、こども教室の充実が図れる。 ・第4回セミナーにて、「ママハタラクプロジェクト」塚本さんより、菊陽町での事業展開提案があり、今後事業化に向けて、採択団体で連携が進みそうである。

団体名	サポート側から見る成果・課題	
	助成事業	組織運営
<p>ハンズハンズ「だんだん食堂」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・評価委員会でもポテンシャルの大きい地域であるという評価であったが、毎回の参加者が多く、スタッフ研修・話し合い、ボランティアの巻き込み、協力者・寄付者支援者への働きかけ等、セミナーで学んだことを即実践に移して、活動を充実させた。 ・SNSや新聞による広報力の素晴らしく、支援の輪が広がっている。 ・子ども・地域食堂ネットワークの中心的存在として注目を集め、事例発表も各所で行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・組織体制の強化・スタッフ役割分担の明確化ができた。新規スタッフやボランティアの確保プロボノ協力ができている。 ・モノやお金の寄付に充実。新たな助成金確保ができた ・食堂だけでなく、地域のコミュニティの場としての開催場所は来年の課題 ・NPO法人化に向けて、勉強・準備中 ・学習支援の連携・事業化へ検討
<p>熊本大学 災害ボランティア サンフラー</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・仮設住宅支援は別の助成金を活用。 ・当助成金では、団体の基盤強化・整備、学生団体のネットワーク化に使う。 ・勉強会等、学生の参加がもう少し欲しかった。地震から2年半過ぎ、支援の在り方をメンバーで確認しながら、進めていく必要がある。 ・学習支援は他の採択団体から要請が多いが、メンバー内での理解話し合いが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・自主的學生ボランティアであり、継続的活動につなげる組織体制づくりは、まだ話し合い中。 ・継続的活動のため、代表を2回生藤原さんに、元代表は相談役とした。 ・学生ボランティアのネットワークは12月9日(日)18時～開催予定財団側も開催協力・出席する
<p>ハロウィンマル シェ実行委員会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・セミナーでは毎回複数メンバーで参加、セミナーや相談での学びを即実践し、支援・協力方法の工夫、参加工夫、自主収入を増やす工夫など、成長があった。 ・行政との連携も努力を重ね、参加者目標1万人をほぼ達成。内容も充実 ・行政機関の理解を得られた。 <p>地域企業・商店街・市民団体との連携が今後の課題。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・4名メンバーで役割分担しながら進めている。今回の開催で新規メンバーが加わった。 ・協力者・支援者の広がりがうまく、たくさんの協力者を得ている。 ・他の助成金も獲得。参加費や店舗・子どもワークショップ出展収入・景品抽選券収入等工夫。 ・継続的開催には運営体制を広げて行くことも検討する必要がある。
<p>全体として</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・継続したセミナー開催(欠席した場合は個別一開催)・個別相談会を実施したことで、団体の学び・成長・成果が見られた。 ・財団として、採択団体の一体感を配慮(連絡グループを作り、互いの活動を知らせる)してきた。団体同士広報協力やイベント協力が生まれている。また、来年度に向けて、連携の話が出ていることもうれしい成果である。 ・事業だけでなく、組織運営資金調達等考える機会を持つことは、重要であると事業実施して、再確認した。 	

セミナーの様子

1. 開会挨拶



2. 各団体活動報告

- ① 中間報告以後の活動
- ② 成果・課題について
- ③ 各団体への質疑応答



ママハタラクプロジェクト



熊本大学災害ボランティアサンフラワー



よかあんぱいJAPAN



ハンズハンズ「だんだん食堂」



熊本転入ママの会

④ 来年度の計画について話し合い



ハロウィンマルシェ実行委員会

4. 閉会

5. 現状把握・団体個別相談

- ① 各団体の活動報告・成果・課題
- ② 今後の計画・団体運営について発表後、全体で見合う！

